

おたる 西別院だより

季刊 第106号



小樽別院・各説教所の報恩講の日程

- 小樽別院……………10月13日（日）～16日（水）
- 法友会（新光説教所）……………10月25日（金）・26日（土）
- 樹心会唯信講（奥沢説教所）……………11月2日（土）・3日（日）

10月13日（日）から17日（木）まで、月忌参詣をお休みさせていただきますので、どうぞお寺にお参りください

報恩講

さて、報恩講が勤まりますのでお寺へお参りくださいといわれても、お寺で一体何をしているのやら、日程表を見てもピンとこないという方もいらっしゃるでしょう。

数日に亘って勤められる親鸞聖人のご命日の法要へお参りし、講師の法話を聴聞する、もちろんそれこそが報恩講の報恩講たるゆえんなのですが、地域によっては門前で農家

の方の収穫した野菜の販売があったり、出店がでたり、いろんな催し物もあります。

今回は、ちよつと違う角度から小樽別院の報恩講をご紹介します。これが報恩講、ではなくても報恩講という感じで捉えていたとき、是非一度足を運んでいただきたい、と願っております。

壺 物故者追悼法要

前年九月から本年の八月末にお亡くなりになった方の追悼法要を勤めさせていただきます。亡き方を通して自分の宗派（お寺）のを知るきっかけとなります。

命日以外でお寺にお参りに来たのはこれが初めてという方もけっこう多いです。



弐 お齋

毎年十五日のお昼に婦人会の方が精進料理のお弁当を作って、参拝の方に無料で振る舞ってくださっています。その数およそ二〇〇食。数日前から準備して味の染みたなますやお煮しめの入った弁当と椀物。



参

雅楽×オルガン×コーラス×おつとめ

親鸞聖人七五〇回大遠忌に併せて制定されたおつとめ。お寺の法要のイメージが変わると参拝者にも好評。黙って座っているだけでも見応えがありますが、お経本を配って下さるので是非一緒に。



四 蠟燭の灯りの下で

本堂の照明を消した暗がりの中、蠟燭の灯りをつけ親鸞聖人のご生涯を記された読み物（御伝鈔）を拝読。参拝者は真っ暗な本堂でそのご生涯を聴かせていただきます。



五

莊嚴（飾り・お供え）

お寺で一番大切な法要、報恩講期間中は陣含め境内までこれ以上ないというくらいお飾りをさせていただいております。



平成25年度報恩講日程表

期日	時間	法要・行事	布教（御法話）
10月13日(日)	午後 1時 30分	○逮夜法要 御伝鈔上巻拝読	布教 40分
10月14日(月)	午前 6時 30分 午前 10時 午後 1時 30分 午後 6時	○晨朝勤行 ○日中法要 ○逮夜法要 御伝鈔下巻拝読 ○初夜勤行 祖徳讃仰	布教 30分 布教 40分 布教 40分 崇敬法中 30分 布教 30分
10月15日(火)	午前 6時 30分 午前 10時 正午 午後 1時 30分 午後 6時	○晨朝勤行 ○日中法要 お齋（お食事） ○大逮夜 御俗姓拝読 物故者追悼法要 ○初夜勤行 祖徳讃仰 後夜勤行	布教 30分 布教 40分 布教 40分 崇敬法中 30分 布教 30分
10月16日(水)	午前 6時 30分 午前 10時	○晨朝勤行 ○満日中	布教 30分



報恩講布教講師

むこう しま しんご
向嶋 信吾 師

(本願寺派布教使・中央仏教学院講師)

金子みすずさんと報恩講

東日本大震災の後、テレビCMでよく流れていた「これまででしょうか？」という詩を覚えていますか？この詩を詠まれた金子みすずさんはこのCMを期にさらに認知度の高まった詩人といえます。

みすずさんは大正末期から昭和初期にかけての時代を生き抜かれた方でした。享年二十六歳という若さで世を去るまで五百もの詩を残されたそうです。ただしその作品は没後五十年ほど経てから発見されたものですから詩人として活動されていたわけではなさそうです。生まれ育った町は山口県の長門市仙崎という場所。ここは浄土真宗の教え、お念仏の教えが生活に根付いたかたちで伝承されていた場所なんだそうです。仙崎は捕鯨の町。命懸けで鯨と戦うことを生業とする中で、多くのことを感じ考えながら生活されたことでしょう。そんなみすずさんの詩の一篇に報恩講という題の作品があります。

「報恩講」 金子みすず

「お番」の晩は雪のころ、
雪はなくても闇のころ、
くらい夜みちをお寺へつけば、
とても大きな蠟燭と、
とても大きなお火鉢で、
明るい、明るい、あたたかい、
大人はしつとりお話で、
子供は騒いじゃ叱られる、
だけど、明るくにぎやかで、
友だちやみんなよっていて、
なにかしないじゃいられない、
更けてお家にかへっても、
なにかうれしい、聞られない、
「お番」の晩は夜なかでも、
からころ足駄の音がする。

「お番」というのは、その地方で「報恩講（ほうおんこう）」のことをいいます。年に一回の「報恩講」は、おごそかに、ていねいに、そしてにぎやかに勤められていたことでしょう。

大人は朝から晩まで仏の教えを聴聞し、子どもはとりあえずお寺で座っている。前で法話をしているお坊さんの言うことの意味は分からないけれども、いつもと違う雰囲気や堂内に満ち満ちていたのではないのでしょうか？

実際、お参りに伺っていても「子ども頃、親に連れられてお参りした報恩講はなんだか楽しかった」という話をよく聞きます。

みすずさんの『報恩講』という詩から、そういった何か心をワクワクさせる風景を感じることが出来ます。



報恩講（ほうおんこう）

報恩講とは、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人のご遺徳をしのびお勤めされる浄土真宗のお寺で一番大切な法要です。正月よりお盆より彼岸より報恩講。そう断言できるのは、親鸞聖人が明らかにしてくださった念仏の教え、阿弥陀如来という仏さまのお心を通し、ひとりひとりの人生の意味と行く末をお伝えくださった、その御恩に思いを馳せる法要です。



ご門徒さんを訪ねて 第十四回「牧田商店」



今回の訪問先は、入船十字街にある牧田商店さん。「御用聞きだけじゃなくて、とつても親切なお店ですから」と近所の方から紹介をいただき、お忙しい中無理言って取材にに応じてくださいました。

「うちができたのは明治四十三年だからね。」

「え〜と…えっ？百年前ですか？」

「そうだよ。」

「百年前からここですか？…ということ、おじいさんの代ですか？」

『親父の代ですよ。私ももうそんな年なんですよ（笑）』なんていう調子のはずれた質問から始まりいきなり度肝をぬかれました。

思い出せる限りの昔話を教えてもらおうと思いつたこと

ろ、『松ヶ枝町付近は遊郭だったらしいんだ。昭和の五〜六年までかな。もつともまだ小さかったからほとんど記憶にはないけど、このあたり通り道で華やかだったね』とのこと。創業当時から今で言う雑貨店を営んでいらつしやつたとのこと。父親から譲りうけたこの店への思い入れは相当あったのでしょうか。という話から父親の話へ…。

『いわゆる軍人あがりの人間だったから曲がったことが嫌いな人だったな。面倒見がよくてね、尊敬してましたよ。私の上に姉が四人いたんだけど、全員女学校に通わせましたし、何よりいんな人が親父を頼ってきたね。それで嫌だといえない性格だったし、義理人情に厚かったから借金をこさえてまで人に融通したもんだよ。だから誰もうちの親父を悪くいう人はいなかったな』

よくよく話を伺うと、当時はまだ戦後の配給の時代。店頭には並べる商品もままならない、そんな時代の出来事ですから、なんでも困った人に融通してたら暮らし向きも大変だったんじゃないかろうかと伺うと、

『自分達が贅沢してまで、困つ

た人をほつとくなんて道義はない。私だってそうですよ。あの世までお金なんて持つていけませんからね（笑）町会なんかでもいろいろな役は頼まれたけど、必要な時は懐から出すし、赤字を出してまわせない、そういうもんですよ』

本当に父親の生き方を尊敬してらつしやるのが言葉の端々から感じられました。

『お寺のこともそうだね、父親に連れられて小さい頃からよく行つたもんだよ。信仰が篤かったんだらうね、それこそ親父の仏壇は今じゃちよつと作れないくらい立派なものだから洗濯にだして大事に使つてますよ』

最後に、お寺へあるいは僧侶への要望？というか、ご意見などございますかと言う問いに、

『納骨堂も段々空気が目立つ様になつてきたね、これからは墓を守る人・後を継ぐ人がいなくなるんだとみんな心配してるんじゃないかな。お寺にはその事に対しての安心という対策というか考えて貰えたら嬉しいな』と貴重なご意見をいただきました。お忙しい中ありがとうございました。

取材を終えて

「お金じゃないんだよね」と口では言えても、実行するのは難しい。ただお金で買えないものは確かにあって、それを宝にするという生き方は深く考えさせられるものがありました。

それは、お店に来られるお客さんを見ていると明らかで、商品の受け渡し、金銭の支払い、ここにはそれ以上のものがあるんだなと。

そういえば店名も「コミュニティ（共同体）ストア」でした。地域に根ざし、地域の方々と共に暮らしていく。「コンビニエンス（便利）」なお店との違いがそこにあるのでしょうか。

余談としては、4〜5年前に店舗がドラマのロケで使われたとか、某局のワイドショーから再三取材の依頼があったとか、話題の尽きない素敵な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。（森）



マキタコミュニティストア
 住所 小樽市入船2-3-6
※入船十字街上ル
 電話 0134-22-3677
 営業時間 朝7時～夜7時

和洋菓子

り り あん

里 李 庵

牧田 敏雄

店舗 小樽市朝里2丁目13番15号
 電話 店舗(54)-6127

家電製品販売、修理、フランスベッド
 住宅設備機器販売、住家リフォーム
 冷暖房設備・ロードヒーティング・融雪設備

お客様に愛される信頼とサービスの店

有限会社 西森電機商会

小樽市天神1丁目10番3号
 TEL(0134)24-0503
 FAX(0134)32-2217

新畳・表替・裏返・畳工事

やっぱり畳が落ち着く
 生き続ける伝統の技

曲 木下畳店

小樽市山田町 8-6
 ☎・FAX 23-2245

広告募集 「おたる西別院だより」に掲載して下さる商店や業者等を募集しております。詳しくは **0134-22-0744** 別院だより担当:森までご連絡ください。

お寺の行事カレンダー

10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
← 宗祖親鸞聖人報恩講 →						
20	21	22	23	24	25	26
						← 法友会報恩講 → ○18:00～ ○6:30～○13:30～
27	28	29	30	31		

11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
						樹心会唯信講報恩講 ← ○18:00～
3	4	5	6	7 常例布教 14:00～	8 常例布教 14:00～	9 常例布教 14:00～
樹心会唯信講報恩講 ○6:30～○13:30～						
10 常例布教 14:00～	11 常例布教 14:00～	12	13 常例布教 14:00～	14 常例布教 14:00～	15 常例布教 14:00～	16 常例布教 14:00～
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

教化団体の活動（佛教婦人会）

活動予定

毎月15日 例会
 10月上旬 おみかぎ
 10月13日～16日
 小樽別院報恩講
 参拝・手伝い

活動報告

6月27日
第30回 全道仏教婦人大会
 片道約500キロ。車で往復しました。総裁様をお迎えして900名近くの参加者でした。

7月18日
第36回 後志組仏教婦人大会
 小樽別院を会場に開催されました。午前中は金龍先生によるお話。午後は神田香織師匠による「はだしのゲン」の語りでした。当日はお天気も良く楽しんで参加していただけたと思います。



別院門徒物故者
（平成二十四年七月末現在）

小紙文隆様

ご逝去のおしらせ

平成二十五年七月二十一日

謹んで哀悼の意を表し、
お念仏申しあげます。

小紙文隆さまは昭和六十二年に
総代として、また平成八年からは
責任役員として就任いただき、本
堂修復始め、別院の護持発展のた
めにおよそ二十五年に亘って、多
大なご尽力を賜りました。

百日参拝終了式

5月1日より別院および奥沢・新光説教所にて勤めさせていた
だきました今年度の百日参拝も8月8日をもって、無事に
終了させていただきました。

皆勤賞 7名

辻井 聡克さん
野坂 房史さん
辻 祐子さん
三浦 幸子さん
岡 久夫さん
本間 静枝さん
清水 ナカさん

精勤賞 1名

重藤 和子さん



百日参拝終了後も365日各所
ではおあさじを勤めており
ますので、ご参拝ください。また来年度も百日参拝を予定して
おりますので、多くの方々のご参拝をお待ちしております。

小樽別院よりのお願いとお知らせ

小樽別院に登録されている代表者の方の連絡先が不明
になつていらっしゃるご家庭が増えてきております。
左記の場合には必要書類にご記入いただきご提出をお願
いしておりますので必ずお寺までお申し出ください。ま
うお願い申し上げます。

①代表者または納骨堂管理者の転居
②代表者または納骨堂管理者が変更になる場合

※ご印鑑や印鑑登録証明・戸籍謄本、ご本人の署名が必要
となる場合がございますので、事前にお電話にてご連絡い
たいただきますようお願い申し上げます。

尚、お盆・お彼岸等別院行事のある場合は、ご希望の日
時での納骨やご法事等お受けできない場合がございますの
で、こちらも事前に別院に日程や時間をご相談ください。

お問い合わせは

電話 〇三四（三）〇七四四
FAX 〇三四（九）四〇八〇
小樽別院寺務所まで

**通夜・葬儀の
御案内**

小樽別院会館ホー
ルにて通夜・葬儀がで
きます。亡き方がくだ
さった大切なご縁を
菩提寺にてお勤めさ
せていただきます。
詳細につきましては
寺務所までお尋ね
ください。



（写真は浄縁塔仏間）



（写真は会館ホール）

▶小会場もございます
（20名程度）
※本堂での通夜・葬儀も
ご相談に応じます

テレホン法話

●テレホン法話担当表

10/ 1(火)~10/16(水)	岡崎
10/17(木)~10/31(木)	磯村
11/ 1(金)~11/15(金)	村田
11/16(土)~11/30(土)	西村

TEL 27-1616

編集後記

お盆も終わり、今年も秋の彼岸、そして今年も報恩講法要を勤めさせ
ていただく季節が参りました。

日々の生活に追われ時事の法要行事を迎えさせて頂くとき、私たちは
改めて月日の早さを感じるものです。

そして法要を通して日々の生活を振り返り明日への学びへとさせてい
ただく、私たち自身の事も周りからの動きで気付かせていただくもの
ですね。

門上

連絡先

本願寺小樽別院
小樽市若松1丁目4番17号
☎0134-22-0744
FAX 0134-29-4080

編集委員

門徒委員 別院担当者
平田 晴己 西村 玄介
竹澤 知恭 森 敬信
福川ヨシ子 門上 誓淳

みんな仲良し

小樽幼稚園

～まこと(いのち)の保育を行っています～



小樽幼稚園では、親鸞聖人が開かれた浄土真宗のみ教えに基づき、一人ひとりの園児に寄り添い「いのちの大切さ」「自然への感謝」「やさしい心」を育てる「まことの保育」に努めています。お絵かきや制作などのクラスでの活動の他に、プール遊びや、クラス合同のホールでのリズム遊びなどを通し、異年齢の交流を深めており、年長から年少までみんな仲良く遊んでいます。是非一度見学にお越しください。（年中見学可能です。事前にお電話でご連絡ください。）

●小樽幼稚園に遊びに来ませんか？●

体験入園

10月18日(金) 14:30～
26日(土) 10:00～

先生と一緒に体を動かしたり、制作をして遊びましょう。園バスの試乗もできます。

公開保育

10月15日(火)/22日(火)
10:00～12:00

小樽幼稚園の保育の様子をご自由にご覧ください。

その他の日も見学できますので事前にお電話でご連絡ください。

3歳のお誕生日を迎えたお友だちの途中入園を募集しております。

詳しくはお電話でお問い合わせください。

学校法人 小樽龍谷学園

小樽市若松1丁目4番17号

小樽幼稚園 TEL/FAX 0134-22-6536

